



2023年10月期 2Q決算について想定されるご質問に対する回答

本資料は、本日開示した2023年10月期 2Q決算について想定されるご質問に対する回答を皆様のご参考として開示するものです。

Q1：売上、営業利益は前年同期を上回っていますが、経常利益、四半期純利益が前年同期を下回っているのはなぜでしょうか。

A1：新規出店、既存店が好調であったことから売上は増収、本業の利益獲得能力である営業利益は増益となっております。一方で、前年同期には、時短協力金などの補助金収入が336百万円計上されておりますが、当期に関しましては補助金収入の計上はほぼゼロであることから、経常利益、当期利益では前年同期比で減益となっております。

Q2：粗利率が前年同期比で低下する一方、営業利益率は同水準なのはなぜでしょうか。

A2：原材料価格やエネルギーコストの上昇による運送費の上昇などにより、仕入価格が上昇しております。各種コスト上昇に対して、弊社の基本方針は、原価と人件費の両面からコスト上昇分を吸収できるように価格改定させていただくという方針のもと運営しております。そのため、粗利率は低下しますが、人時生産性の向上により人件費率も低下しており、営業利益率は高水準を維持できております。なお、昨年2回、今年1回の価格改定後、客足への影響はございませんでした。

Q3：出店の進捗状況はいかがでしょうか。

A3：4月末までの進捗としては、直営店は17店舗（純増15店舗）の新規出店、プロデュース店は33店舗の純増で、合計48店舗の純増を図りました。年間62店舗の純増の計画であり、順調に進捗しております。引き続き出店計画達成に向けて取り組んでまいります。



Q4：人財確保の状況はいかがでしょう。

A4：ウイズコロナの経営環境において、現下の雇用情勢は、外食産業に厳しい状況をもたらしており、人手不足感は強まってきております。当社は採用力の強化を図るとともに、働きやすさや働きがいを両立することで離職率の抑制にも取り組んでおります。

Q5：投資活動によるキャッシュ・フローで支出が増えていますが、どういった内容でしょうか。

A5：事業上の貸付を行ったことによる4億円の支出と、いつでも引き出し可能である定期預金の預入による支出3.5億円の支出を行った影響です。なお、これらによる金利収入は、営業外収益の受取利息に計上しております。

以上